

小中高生の国内、海外 研修派遣事業について



問

少年期は豊かな感性を育て、社会性、公共性、自主性等を身につける大切な時期である。そのためには、多くの体験学習等を通して人と人とのふれあいや、自然との共生等自ら体験の中で育み培っていく必要があると考える。

今まで教育委員会が主催し、実施してきた国内研修派遣事業の派遣先宮崎県日向市東郷町、神奈川県開成町、また、旧忠類村で地域子ども会育成連絡協議会が実施してきた埼玉県上尾市、海外研修派遣事業派遣先のオーストラリア、キャンベラ市と多くの児童生徒が参加し、事業の目的である団体生活、ホームステイ等を体験するとともに、派遣先の歴史・生活・文化等を学び、派遣先の児童生徒との交流を通して視野を広げ、児童生徒の資質の向上が図られ、異文化に接することで語学は勿論、国際的視野

を広める等、本事業は今まで参加した児童生徒の将来への思い出としての財産、そして今後の学校生活での自身に繋がるものと考え、そこで、今までの研修派遣事業の効果、評価について、そして今後の研修派遣先を含めた事業のあり方について、教育長に伺う。

教育長

研修派遣事業の効果、評価については、大きく3つ挙げられる。

一つには、様々な文化が息づいていることを実感として学んでくることである。二つ目には、ふだんはふれる機会のない体験を通じ、視野が広がることである。三つ目には、自分の経験を家族や友達に伝えることを重視している。また、団体生活、団体行動の中から、同じ町の他校の児童生徒とのつながり、友情も生まれる。特に合併後、同じ町民として、より

一体感を醸成するという点でこのことは重要と考えている。

派遣先を含めた今後の事業の在り方については、合併に伴う事務事業の調整方針で、「交流事業全般にわたり、合併後に再編」することとしており、約半年かけ、四つの交流事業の再編について検討し、さらには交流先との協議をしている。

派遣先については、小学生は国内研修で宮崎県東郷町と埼玉県上尾市へ、中・高校生は海外研修でオーストラリアキャンベラ市のカンバーハイスクールへ、交流先を再編した。

埼玉県上尾市は、30年余にわたるこれまでの経緯から、子ども会育成連絡協議会忠類支部を中心に幕別町全体として交流を継続する。宮崎県東郷町、現在は合併により日向市となったが、地域自治区の事業として継続の意向をいただき、引き続き交流を続けたい。

東郷町の受入れ事情から、上尾市との交流同様1年おきの相互訪問に変わる。神奈川県開成町との交流

は、本年度をもって派遣を取りやめたいと考えている。受入れについては従前同様の対応を続けたいと開成町に伝えている。

参加する児童については、いずれも小学校5年生並びに6年生とし、東郷町へは

20名、上尾市へは15名を、町内の全小学校から募っていききたい。

次に中・高校生の海外研修は、交流方式は従前同様とし、合併に伴い、参加枠を中学生分で2名増とした。



中高生海外研修(オーストラリアにて)